

平成21年度

農林水産情報交流ネットワーク事業 全国アンケート調査

食品及び農業・農村に関する意識・意向調査結果

この調査は、平成21年12月上旬から12月中旬にかけて、農林水産情報交流ネットワーク事業の消費者モニター1,500名、農業者モニター2,500名の方を対象に実施し、前者からは1,305名の回答を、後者からは1,972名の回答を得た結果である。

【調査結果の概要】

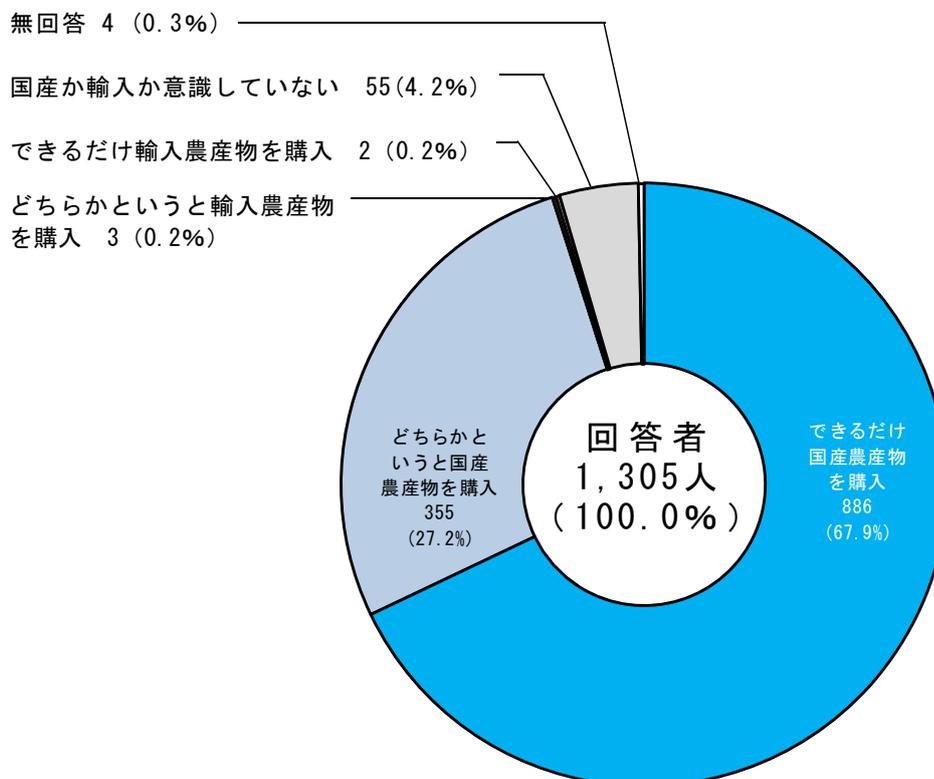
1 消費者モニターに対する調査

(1) 国産農産物と輸入農産物について

ア 国産農産物と輸入農産物に対する意識

農産物を購入する場合に、国産農産物と輸入農産物に対する意識を伺ったところ、「できるだけ国産農産物を購入しよう」と意識している」が67.9%と最も高い割合で、次いで「どちらかという国産農産物を購入しよう」と意識している」(27.2%)であった。(図1-1)

図1-1 国産農産物と輸入農産物に対する意識

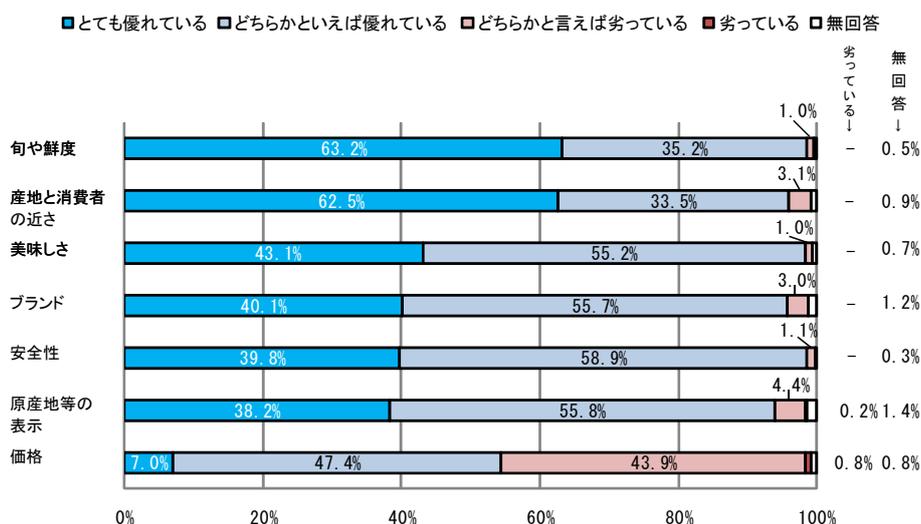


イ 輸入農産物と比較しての国産農産物の評価

輸入農産物と比較しての国産農産物の評価について伺ったところ、「とても優れている」との評価は、「旬や鮮度」が63.2%と最も高く、次いで「産地と消費者の近さ」(62.5%)、「美味しさ」(43.1%)、「ブランド」(40.1%)であった。

(図1-2)

図1-2 輸入農産物と比較しての国産農産物の評価

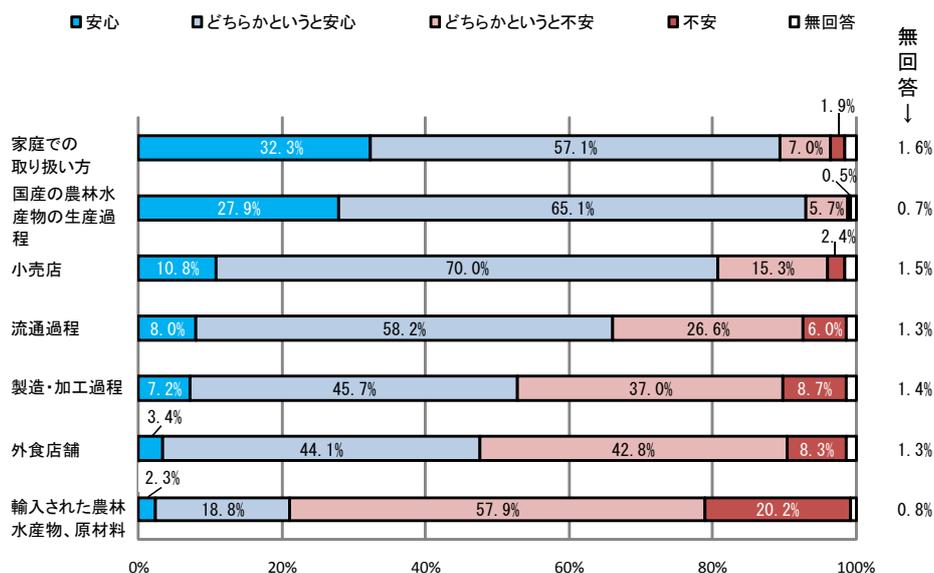


ウ 食品の生産・製造・流通過程・輸入等についての印象

食品の生産・製造・流通過程・輸入等を通じて、各段階の食品の扱い方に「安心」(信頼がもてる)との評価は、「家庭での取り扱い方」が32.3%と最も高く、次いで「国産の農林水産物の生産過程」(27.9%)、「小売店」(10.8%)であった。

(図1-3)

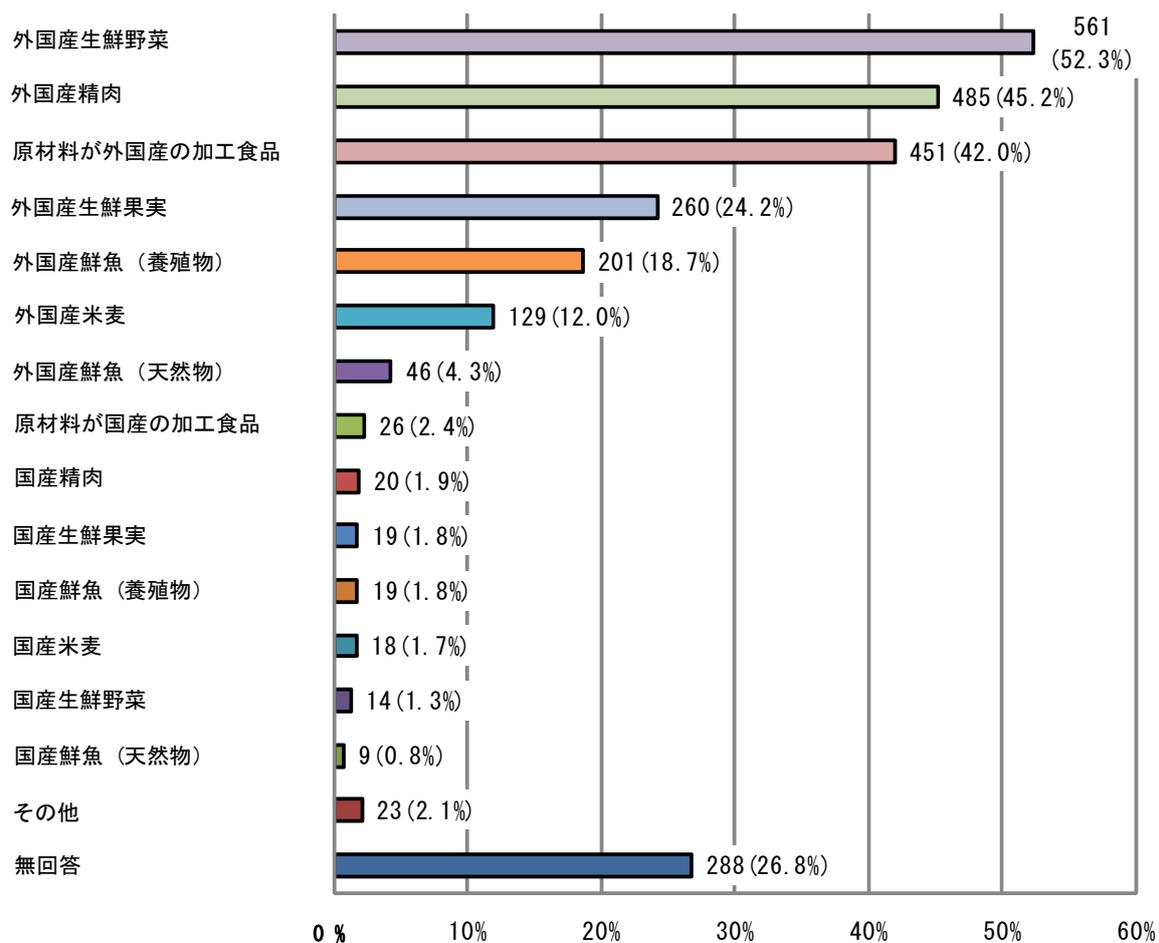
図1-3 輸入農産物と比較しての国産農産物の評価



エ 生産・製造・流通過程・輸入等で不安を感じる食品(複数回答)

生産・製造・流通過程・輸入等を通じて、どのような食品に不安を感じるのか伺ったところ、「外国産生鮮野菜」が52.3%と最も高く、次いで「外国産精肉」(45.2%)、「原材料が外国産の加工食品」(42.0%)であった。(図1-4)

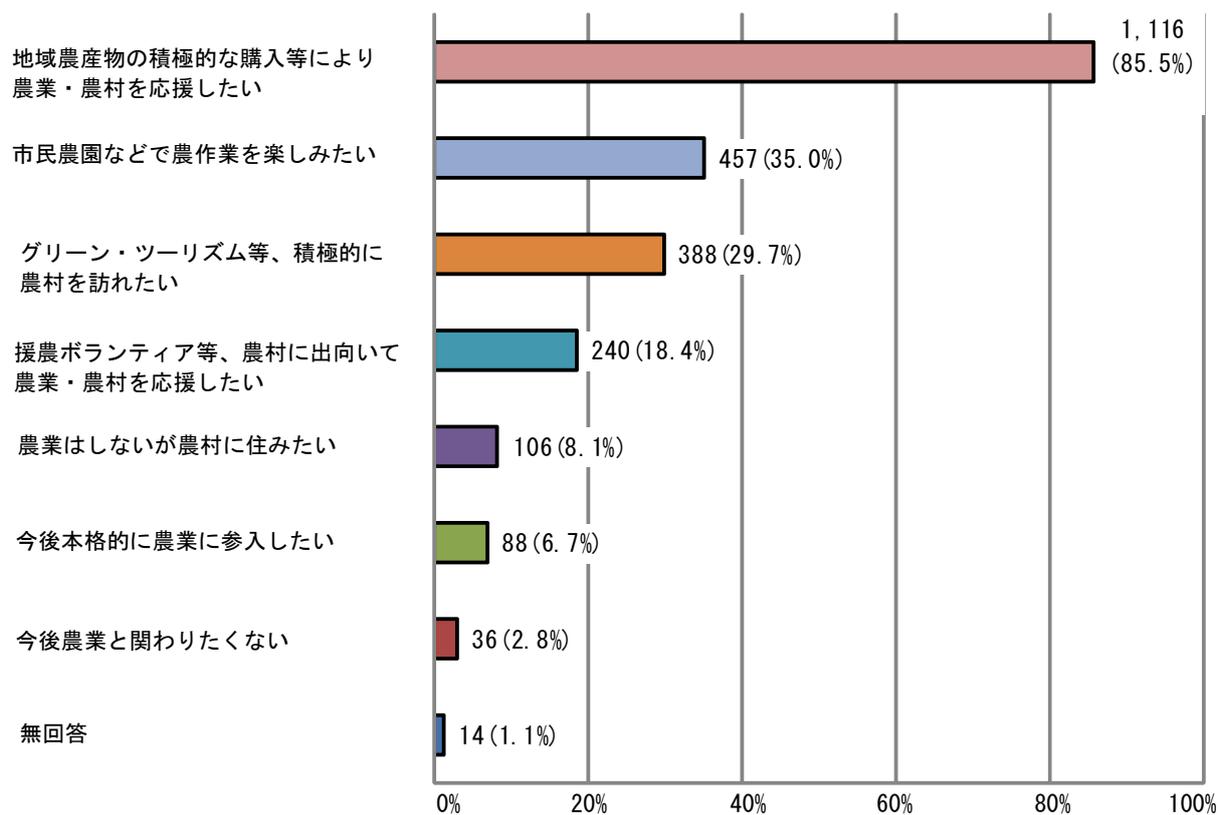
図1-4 生産・製造・流通過程・輸入等で不安を感じる食品(回答者1,073人)



(2) 今後の農業・農村との関わり方（複数回答）

今後、農業・農村とどのように関わっていきたいか伺ったところ、「地域農産物の積極的な購入等により、農業・農村を応援したい」が85.5%と最も高く、次いで「市民農園などで農作業を楽しみたい」（35.0%）、「グリーン・ツーリズム等、積極的に農村を訪れたい」（29.7%）であった。（図2）

図2 今後の農業・農村との関わり方（回答者1,305人）

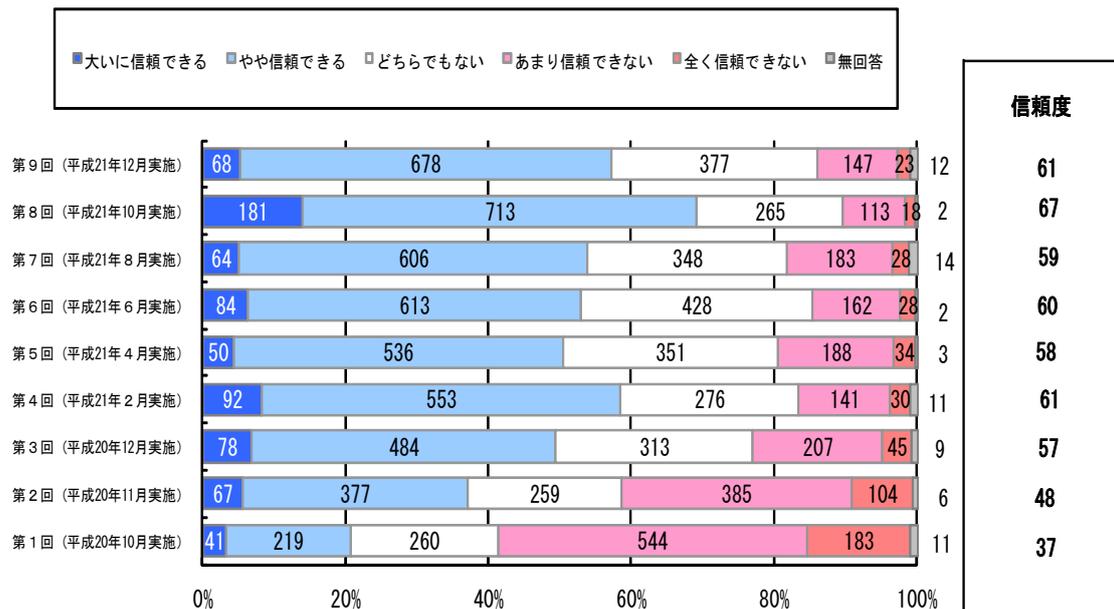


(3) 「消費者が安全な食料を安心して購入・消費できる」ための農林水産省の取組

平成20年10月以降、定期的に調査してきた「消費者が安全な食料を安心して購入・消費できる」ための農林水産省の取組に対する消費者モニターの評価については、57%のモニターが「信頼できる」としたのに対し、13%のモニターが「信頼できない」と回答した。

また、これを指数化した信頼度は「61」となった。

図3 「消費者が安全な食料を安心して購入・消費できる」ための農林水産省の取組



- ※ 第9回：平成21年度農林水産情報交流ネットワーク事業 全国アンケート調査「食品及び農業・農村に関する意識・意向調査結果」（平成21年12月実施）
- 第8回：平成21年度農林水産情報交流ネットワーク事業 全国アンケート調査「新型インフルエンザに関する意識・意向調査結果」（平成21年10月実施）
- 第7回：平成21年度農林水産情報交流ネットワーク事業 全国アンケート調査「農林水産省における改革への取組に関する意識・意向調査結果」（平成21年8月実施）
- 第6回：平成21年度農林水産情報交流ネットワーク事業 全国アンケート調査「漁業の担い手の確保・育成に関する意識・意向調査結果」（平成21年7月31日公表）
- 第5回：平成21年度農林水産情報交流ネットワーク事業 全国アンケート調査「農林水産省改革の取組状況に関する意識・意向調査結果」（平成21年5月1日公表）
- 第4回：平成20年度農林水産情報交流ネットワーク事業 全国アンケート調査「農林水産省の広報活動に関する意識・意向調査結果」（平成21年2月26日公表）
- 第3回：平成20年度農林水産情報交流ネットワーク事業 全国アンケート調査「事故米に関する農林水産省の取組についての意識・意向調査結果（第2回）」（平成20年12月25日公表）
- 第2回：平成20年度農林水産情報交流ネットワーク事業 全国アンケート調査「事故米に関する農林水産省の取組についての意識・意向調査結果（第1回）」（平成20年11月28日公表）
- 第1回：平成20年度農林水産情報交流ネットワーク事業 全国アンケート調査「農林水産省の役割に対する期待と評価に関する意識・意向調査」

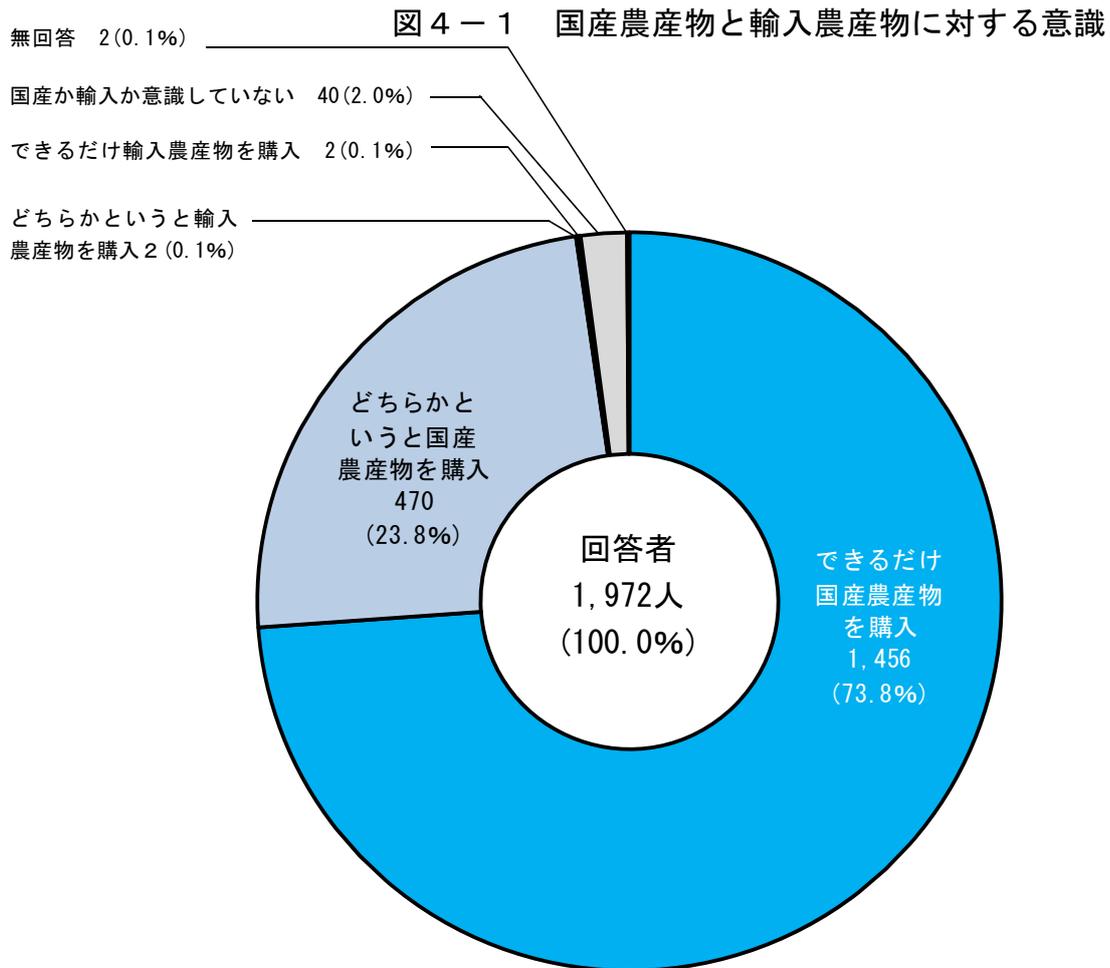
「大いに信頼できる」を100
「やや信頼できる」を75
「どちらでもない」を50
「あまり信頼できない」を25
「全く信頼できない」を0
と指数化した数値

2 農業者モニターに対する調査

(1) 国産農産物と輸入農産物について

ア 国産農産物と輸入農産物に対する意識

農産物を購入する場合に、国産農産物と輸入農産物に対する意識を伺ったところ、「できるだけ国産農産物を購入しよう」と意識している」が73.8%と最も高い割合で、次いで「どちらかという国産農産物を購入しよう」と意識している」(23.8%)であった。(図4-1)

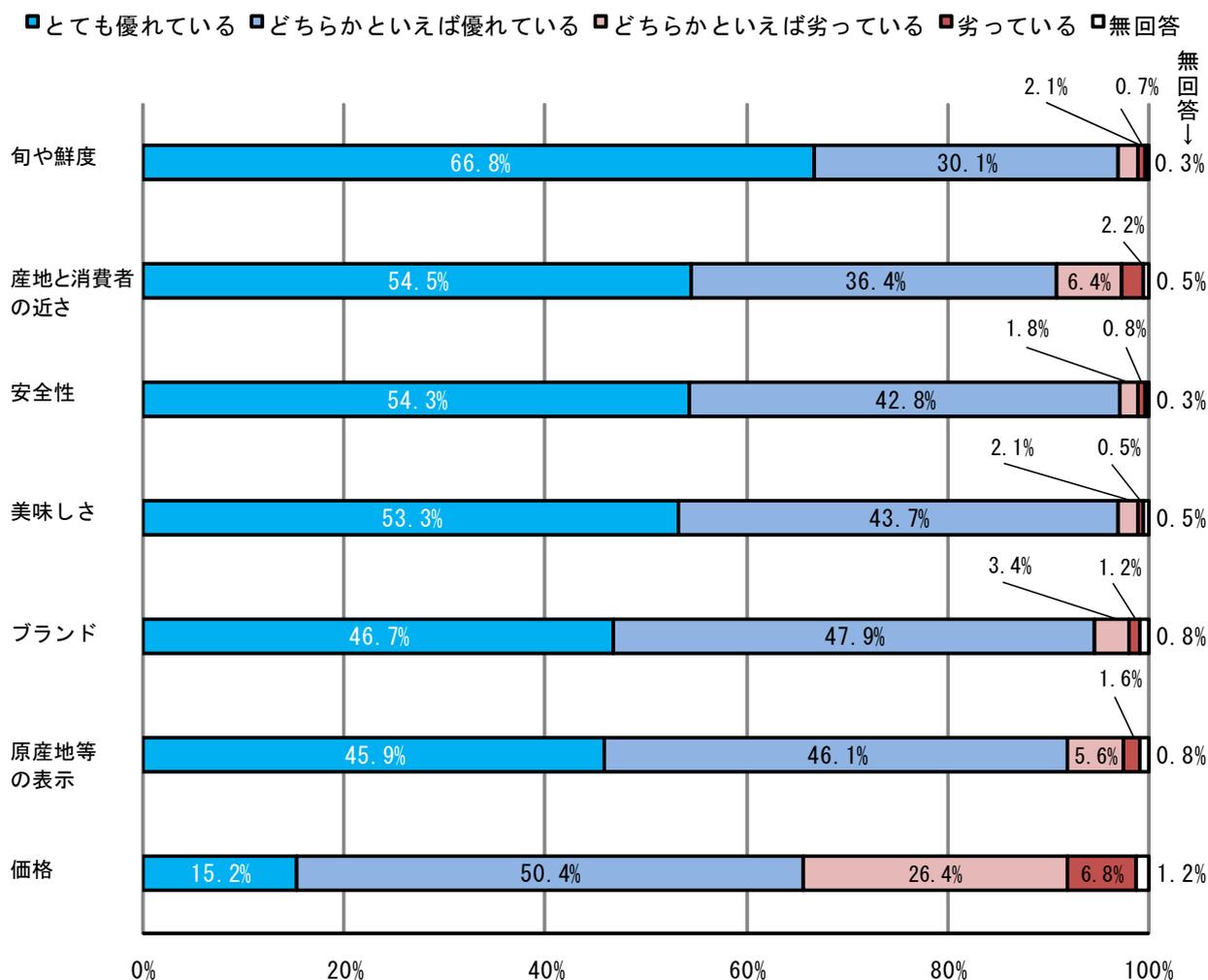


イ 輸入農産物と比較しての国産農産物の評価

輸入農産物と比較しての国産農産物の評価について伺ったところ、「とても優れている」との評価は、「旬や鮮度」が66.8%と最も高く、次いで「産地と消費者の近さ」(54.5%)、「安全性」(54.3%)、「美味しさ」(53.3%)であった。

(図4-2)

図4-2 輸入農産物と比較しての国産農産物の評価

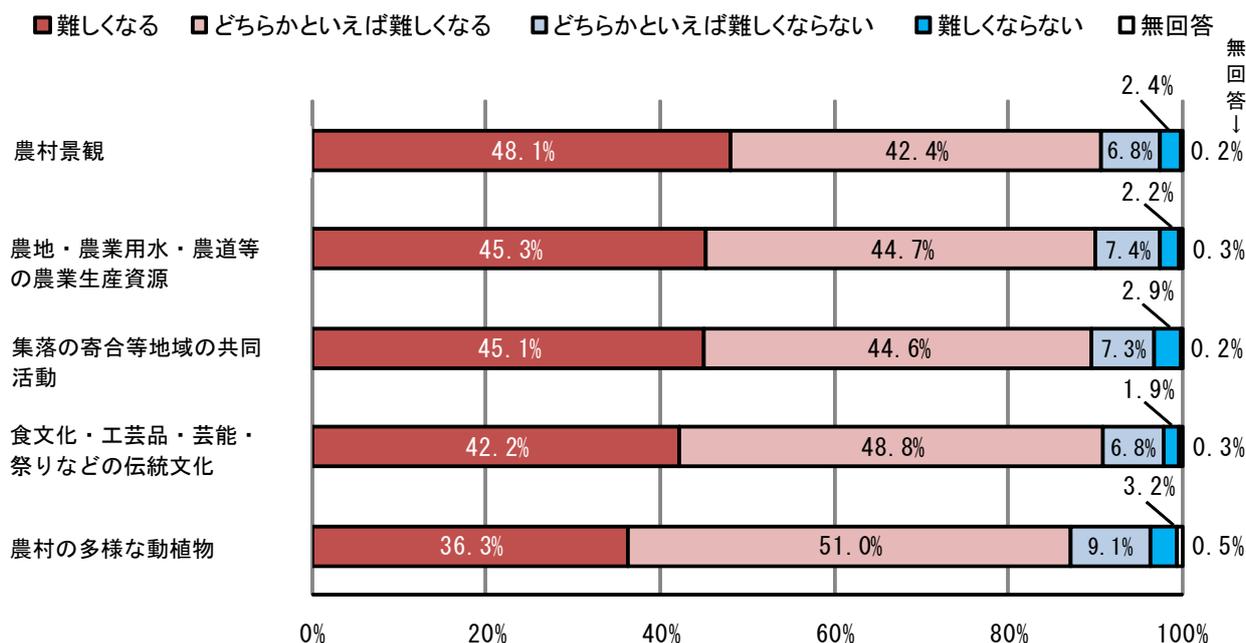


(2) 農業生産資源・農村資源について

ア 農村の農業生産資源・農村資源の維持に関する意識

多くの集落で農家数の減少、農業者の高齢化、農村の混住化などが見られる中で、集落内の農業生産資源・農村資源を将来にわたって維持し続けることができるか伺ったところ、「農村景観」の維持が難しいと回答した割合が48.1%と最も高く、次いで、「農地・農業用水、農道等の農業生産資源」(45.3%)、「集落の寄合等地域の共同活動」(45.1%)であった。(図5-1)

図5-1 農業生産資源・農村資源等を維持し続ける難しさ

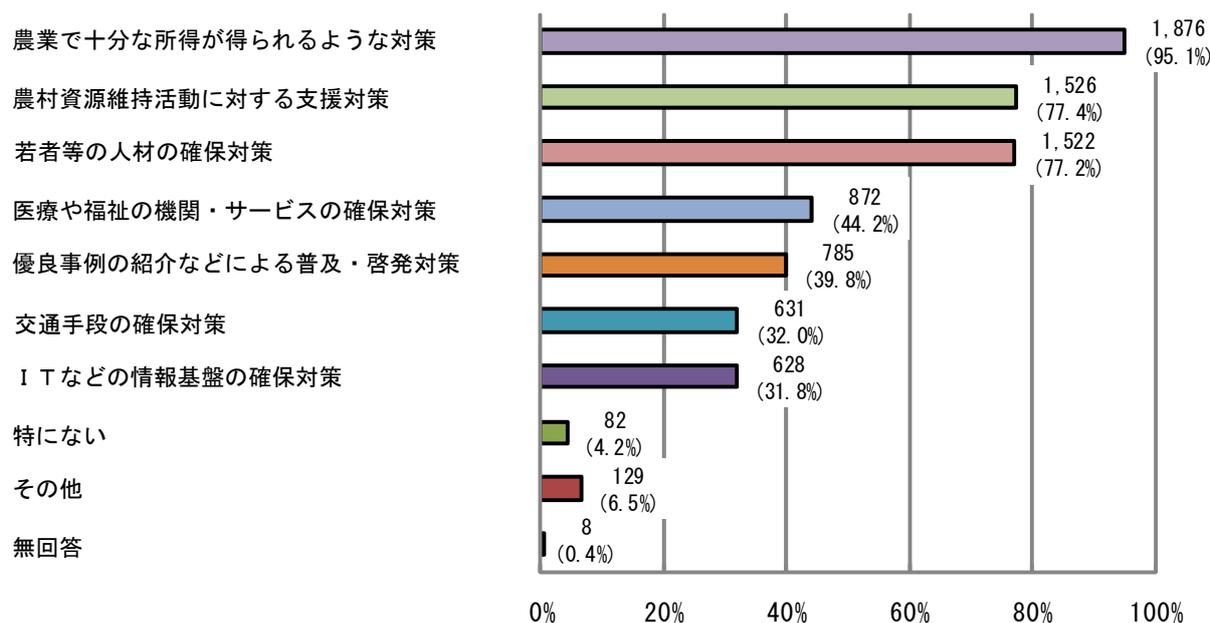


イ 農業生産資源・農村資源等を維持するために必要な施策(複数回答)

農村の農業生産資源・農村資源等の維持が難しくなる中で、将来にわたって資源を維持していくためにはどのような施策が必要か伺ったところ、「農業で十分な所得が得られるような対策」が95.1%と最も多く、次いで「農村資源維持活動に対する支援対策」(77.4%)、「若者等の人材の確保対策」(77.2%)であった。

(図5-2)

図5-2 農業生産資源・農村資源等を維持するために必要と考える施策(回答者1,972人)



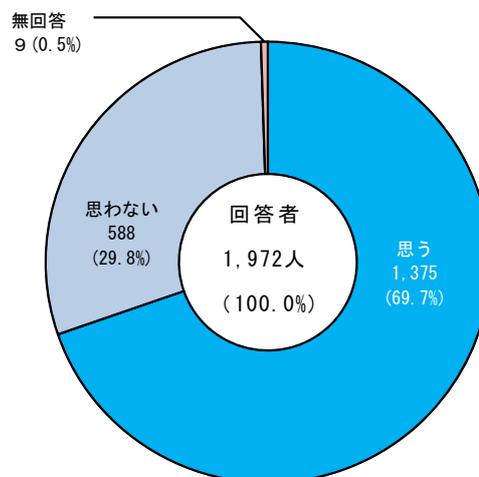
(3) 後継者について

ア 自分の子供に自家の農業を継がせたいか

前述のとおり、農業生産資源・農村資源を維持していくためには、人材確保が重要という回答が多い。そこで、自分の子供に自家の農業を継いでもらいたいと思うかどうか伺ったところ、69.7%の農業者から継いでもらいたいと「思う」との回答を得た。

(図6-1)

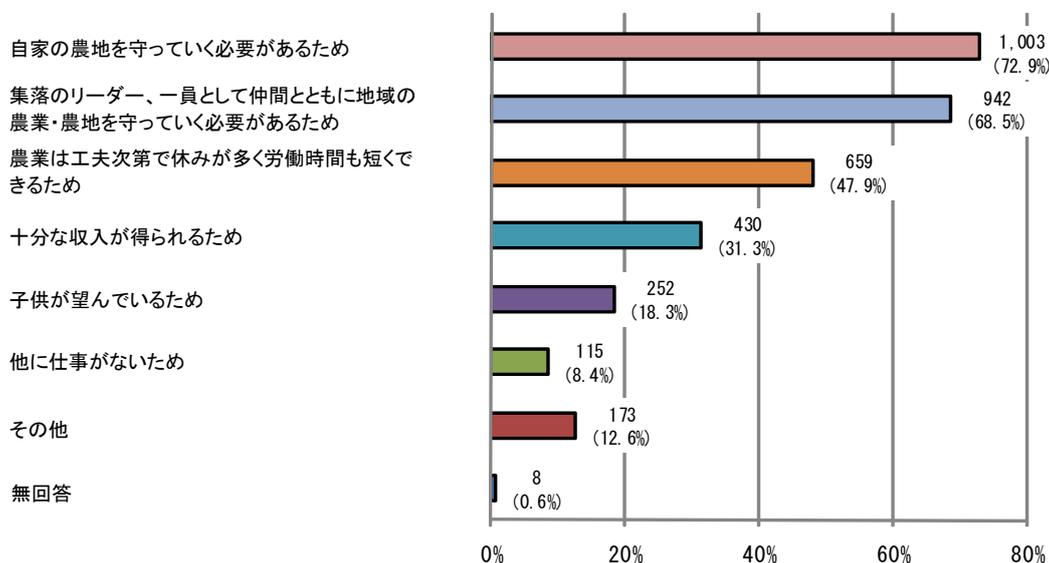
図6-1 自分の子供に自家の農業を継がせたいか



イ 継がせたいと思う理由（複数回答）

継がせたいと思うと回答した方にその理由を伺ったところ、「自家の農地を守っていく必要があるため」が72.9%と最も多く、次いで「集落のリーダー、一員として仲間とともに地域の農業・農地を守っていく必要があるため」(68.5%)、「農業は工夫次第で休みが多く労働時間も短くできるため」(47.9%)、「十分な収入が得られるため」(31.3%)であった。(図6-2)

図6-2 自分の子供に自家の農業を継がせたい理由（回答者1,375人）

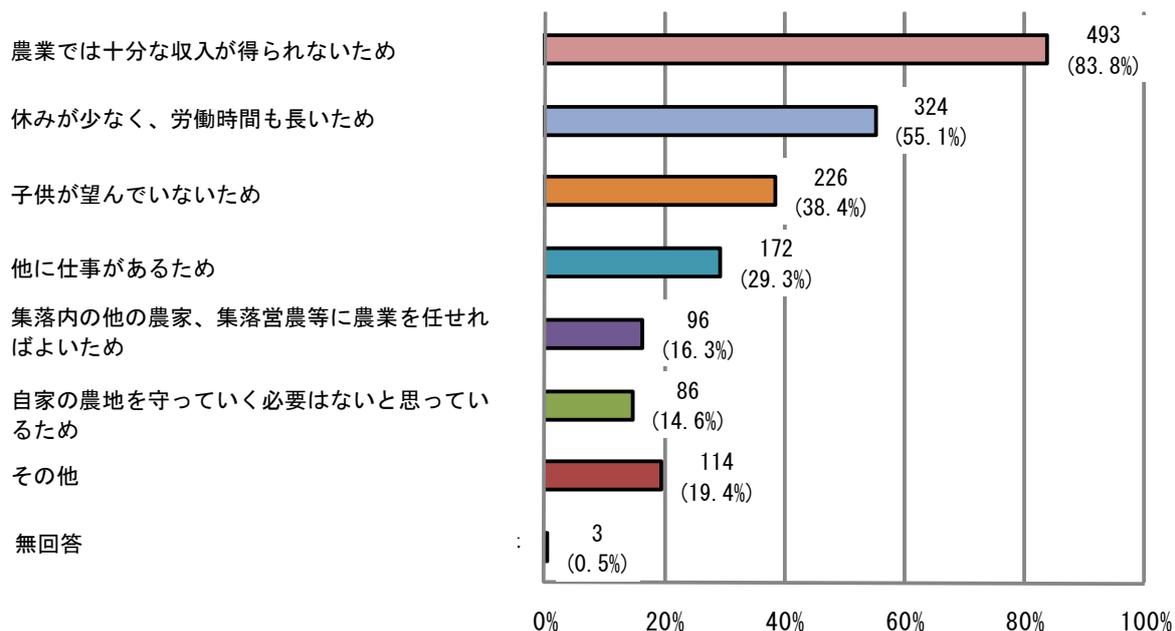


ウ 継がせたいと思わない理由（複数回答）

継がせたいと思わないと回答した方にその理由を伺ったところ、「農業では十分な収入が得られないため」が83.8%と最も多く、次いで「休みが少なく、労働時間も長いため」(55.1%)、「子供が望んでいないため」(38.4%)の回答であった。

(図6-3)

図6-3 自分の子供に自家の農業を継がせたくない理由（回答者588人）

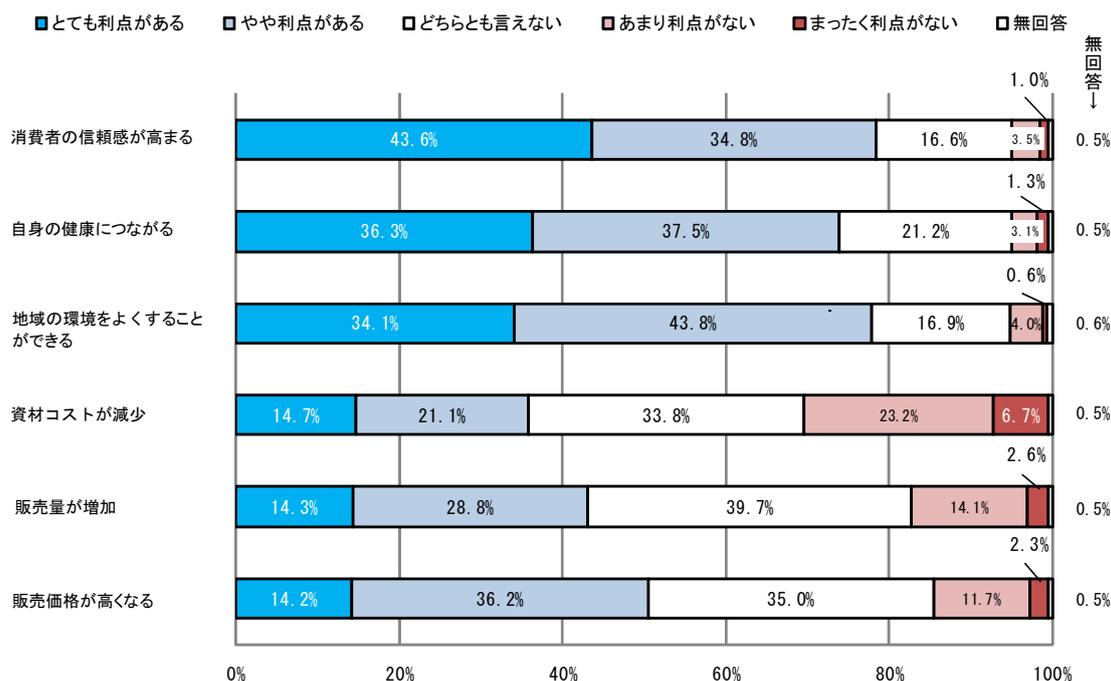


(4) 環境に配慮した農産物の生産

環境に配慮した農産物の生産の利点について伺ったところ、「とても利点がある」との評価は、「消費者の信頼感が高まる」が43.6%と最も高く、次いで「自身の健康につながる」(36.3%)、「地域の環境をよくすることができる」(34.1%)であった。

(図7)

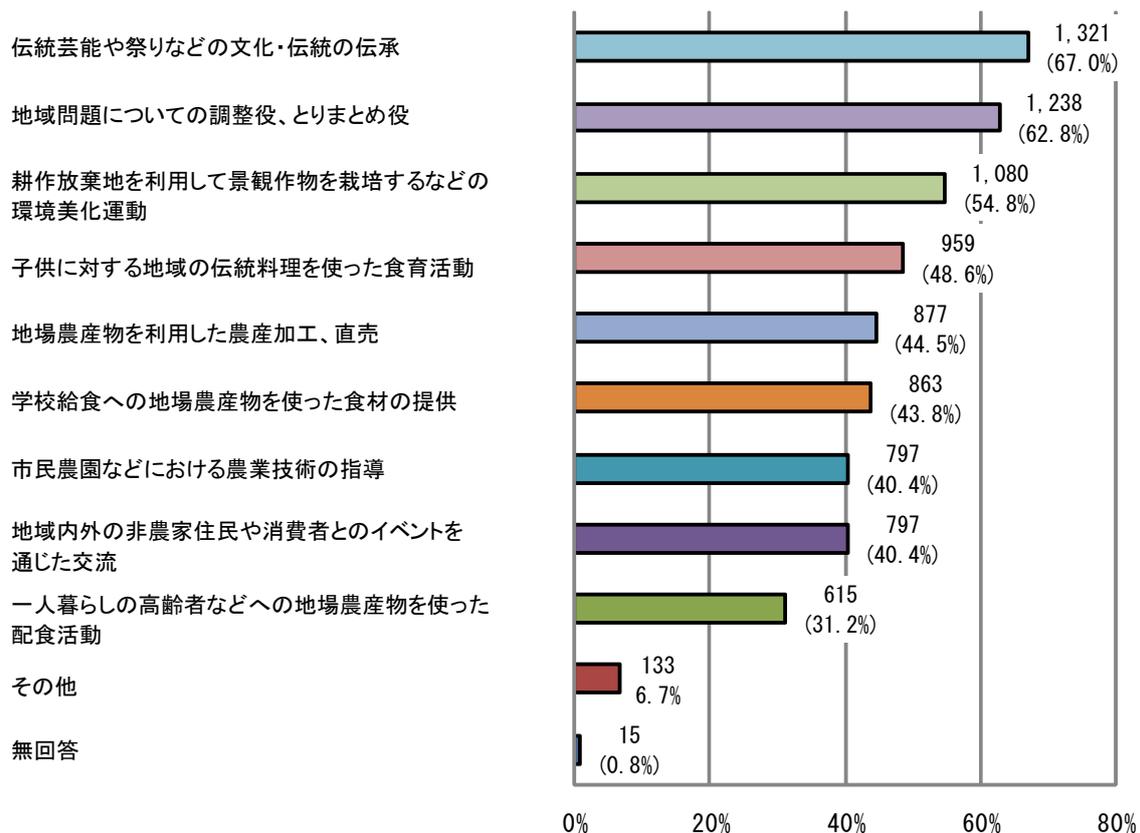
図7 環境に配慮した農産物の生産を行うことの利点



(5) 地域活性化のために高齢者に行ってほしい活動（複数回答）

地域を活性化させるため、高齢者に行ってほしい活動について伺ったところ、「伝統芸能や祭りなどの地域の文化・伝統の伝承」（67.0%）、「地域問題についての調整役、とりまとめ役」（62.8%）、「耕作放棄地を利用して景観作物を栽培するなどの環境美化活動」（54.8%）との回答を得た。（図8）

図8 地域活性化のために高齢者に行って欲しい活動（回答者1,972人）



【調査事項】

消費者モニター用

【1 国産農産物と輸入農産物について】

問1 あなたは、農産物を購入する際、国産品と輸入品をどの程度意識していますか。(該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。)

- 1 できるだけ国産農産物を購入しようと意識している
- 2 どちらかという国産農産物を購入しようと意識している
- 3 どちらかという輸入農産物を購入しようと意識している
- 4 できるだけ輸入農産物を購入しようと意識している
- 5 国産農産物であるか輸入農産物であるかは意識していない

問2 あなたは、国産農産物について、輸入農産物と比較してどう思っていますか。
(以下の(1)～(7)にあげる項目ごとに、それぞれ該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。)

(1) 安全性

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 とてもすぐれている | 2 どちらかというとすぐれている |
| 3 どちらかというと劣っている | 4 劣っている |

(2) 匂や鮮度

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 とてもすぐれている | 2 どちらかというとすぐれている |
| 3 どちらかというと劣っている | 4 劣っている |

(3) 美味しさ

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 とてもすぐれている | 2 どちらかというとすぐれている |
| 3 どちらかというと劣っている | 4 劣っている |

(4) ブランド

- | | | | |
|---|---------------|---|----------------|
| 1 | とてもすぐれている | 2 | どちらかというとすぐれている |
| 3 | どちらかというと劣っている | 4 | 劣っている |

(5) 産地と消費者の近さ

- | | | | |
|---|---------------|---|----------------|
| 1 | とてもすぐれている | 2 | どちらかというとすぐれている |
| 3 | どちらかというと劣っている | 4 | 劣っている |

(6) 原産地等の表示

- | | | | |
|---|---------------|---|----------------|
| 1 | とてもすぐれている | 2 | どちらかというとすぐれている |
| 3 | どちらかというと劣っている | 4 | 劣っている |

(7) 価格

- | | | | |
|---|---------------|---|----------------|
| 1 | とてもすぐれている | 2 | どちらかというとすぐれている |
| 3 | どちらかというと劣っている | 4 | 劣っている |

問3 あなたは、食品の生産・製造・流通過程・輸入等についてどのように感じていますか。

(以下の(1)～(7)にあげる項目ごとに、それぞれ該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。)

なお、各項目で「3 どちらかという不安」又は「4 不安」を選んだ方は、その項目について不安に思っている理由を回答用紙に具体的に記入してください。

(1) 国産の農林水産物の生産過程

- | | | | |
|---|-----------|---|-----------|
| 1 | 安心 | 2 | どちらかという安心 |
| 3 | どちらかという不安 | 4 | 不安 |

(2) 輸入された農林水産物、原材料

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 安心 | 2 どちらかというど安心 |
| 3 どちらかというど不安 | 4 不安 |

(3) 製造・加工過程

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 安心 | 2 どちらかというど安心 |
| 3 どちらかというど不安 | 4 不安 |

(4) 流通過程

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 安心 | 2 どちらかというど安心 |
| 3 どちらかというど不安 | 4 不安 |

(5) 小売店

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 安心 | 2 どちらかというど安心 |
| 3 どちらかというど不安 | 4 不安 |

(6) 外食店舗

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 安心 | 2 どちらかというど安心 |
| 3 どちらかというど不安 | 4 不安 |

(7) 家庭での取り扱い方

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 安心 | 2 どちらかというど安心 |
| 3 どちらかというど不安 | 4 不安 |

問3 (1)～(7)の選択肢において、

すべて「1」又は「2」を選んだ方 → 問5へお進みください。

「3」又は「4」を1つでも選んだ方 → 問4へお進みください。

問4 問3の(1)～(7)のいずれかで、「3 どちらかという不安」又は「4 不安」と回答した方にお聞きします。

あなたはどのような食品の生産・製造・流通過程・輸入等に対して不安を感じていますか。

(以下の1～15の中から該当する選択肢の番号を3つまで選択して回答用紙に記入してください。)

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 国産米麦 | 2 外国産米麦 |
| 3 国産生鮮野菜 | 4 外国産生鮮野菜 |
| 5 国産生鮮果実 | 6 外国産生鮮果実 |
| 7 国産精肉 | 8 外国産精肉 |
| 9 国産鮮魚(天然物) | 10 国産鮮魚(養殖物) |
| 11 外国産鮮魚(天然物) | 12 外国産鮮魚(養殖物) |
| 13 原材料が国産の加工食品 | 14 原材料が外国産の加工食品 |
| 15 その他(具体的に回答用紙に記入してください。) | |

【2 消費者が安全な食料を安心して購入・消費できる】ための農林水産省の取組について】

問5 あなたは、「消費者が安全な食料を安心して購入・消費できる」ための農林水産省の取組について、どのように評価しますか。あなたのお考えにもっとも近いと思われるものを次の中から1つお選びください。

(該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 大いに信頼できる | 2 やや信頼できる |
| 3 どちらでもない | 4 あまり信頼できない |
| 5 全く信頼できない | |

問6 問5で「4 あまり信頼できない」「5 全く信頼できない」をお選びになった方にお尋ねします。その理由について、お知らせください。

(回答用紙の「回答欄」に記入してください。)

【3 今後の農業・農村への関わりについて】

問7 あなたは、現在、どのような地域にお住まいですか。

以下の選択肢から、最も近いと思う番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 大都市部（東京23区、政令指定都市） | 2 都市部（県庁所在地など） |
| 3 郡部、町村など | |

問8 あなたは、今後、農業・農村とどのように関わっていきたいですか。

（以下の1～7の中から該当する選択肢の番号を全て選択して回答用紙に記入してください。）

- | |
|---------------------------------|
| 1 地域農産物の積極的な購入等により、農業・農村を応援したい。 |
| 2 グリーン・ツーリズム等、積極的に農村を訪れたい。 |
| 3 市民農園などで農作業を楽しみたい。 |
| 4 援農ボランティア等、農村に出向いて農業・農村を応援したい。 |
| 5 （農村に移住することも含め）今後本格的に農業に参入したい。 |
| 6 農業はしないが、農村に住みたい |
| 7 （農村以外への移住を含め）今後農業とは関わりたくない。 |

※ 用語解説

グリーン・ツーリズム：農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

援農ボランティア：農繁期に、人手の足りない農家に出向いて農作業を行うボランティア。

【1 国産農作物と輸入農作物について】

問1 あなたは、農産物を購入する際、国産品と輸入品をどの程度意識していますか。(該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。)

- 1 できるだけ国産農産物を購入しようとしている
- 2 どちらかという国産農産物を購入しようとしている
- 3 どちらかという輸入農産物を購入しようとしている
- 4 できるだけ輸入農産物を購入しようとしている
- 5 国産農産物であるか輸入農産物であるかは意識していない

問2 あなたは、国産農産物について、輸入農産物と比較してどう思っていますか。

(以下の(1)～(7)にあげる項目ごとに、それぞれ該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。)

(1) 安全性

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 とてもすぐれている | 2 どちらかというすぐれている |
| 3 どちらかという劣っている | 4 劣っている |

(2) 匂や鮮度

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 とてもすぐれている | 2 どちらかというすぐれている |
| 3 どちらかという劣っている | 4 劣っている |

(3) 美味しさ

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 とてもすぐれている | 2 どちらかというすぐれている |
| 3 どちらかという劣っている | 4 劣っている |

(4) ブランド

- | | | | |
|---|---------------|---|----------------|
| 1 | とてもすぐれている | 2 | どちらかというとすぐれている |
| 3 | どちらかというと劣っている | 4 | 劣っている |

(5) 産地と消費者の近さ

- | | | | |
|---|---------------|---|----------------|
| 1 | とてもすぐれている | 2 | どちらかというとすぐれている |
| 3 | どちらかというと劣っている | 4 | 劣っている |

(6) 原産地等の表示

- | | | | |
|---|---------------|---|----------------|
| 1 | とてもすぐれている | 2 | どちらかというとすぐれている |
| 3 | どちらかというと劣っている | 4 | 劣っている |

(7) 価格

- | | | | |
|---|---------------|---|----------------|
| 1 | とてもすぐれている | 2 | どちらかというとすぐれている |
| 3 | どちらかというと劣っている | 4 | 劣っている |

【2 今後の農業生産資源・農村資源について】

問3 あなたは、多くの集落で農家数の減少、農業者の高齢化、農村の混住化などがみられる中で、集落内の農業生産資源・農村資源（(1)～(5)に掲げる項目）を将来にわたって維持し続けることができますか。

（以下の(1)～(5)にあげる項目ごとに、それぞれ該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。）

(1) 農地・農業用水・農道等の農業生産資源

- | | |
|---|--------------------------|
| 1 | 維持し続けることは難しくなる |
| 2 | どちらかといえば維持し続けることが難しくなる |
| 3 | どちらかといえば維持し続けることが難しくならない |
| 4 | 維持し続けることは難しくならない |

(2) 農村の多様な動植物

- 1 維持し続けることは難しくなる
- 2 どちらかといえば維持し続けることが難しくなる
- 3 どちらかといえば維持し続けることが難しくならない
- 4 維持し続けることは難しくならない

(3) 農村景観

- 1 維持し続けることは難しくなる
- 2 どちらかといえば維持し続けることが難しくなる
- 3 どちらかといえば維持し続けることが難しくならない
- 4 維持し続けることは難しくならない

(4) 集落の寄合等地域の共同活動

- 1 維持し続けることは難しくなる
- 2 どちらかといえば維持し続けることが難しくなる
- 3 どちらかといえば維持し続けることが難しくならない
- 4 維持し続けることは難しくならない

(5) 食文化・工芸品・芸能・祭りなどの伝統文化

- 1 維持し続けることは難しくなる
- 2 どちらかといえば維持し続けることが難しくなる
- 3 どちらかといえば維持し続けることが難しくならない
- 4 維持し続けることは難しくならない

問4 あなたは、将来にわたって、集落内の農業生産資源・農村資源を維持していくために必要な施策は何と考えていますか。

(以下の1～9の中で、該当する選択肢の番号を全て選択して回答用紙に記入してください。)

- 1 農業で十分な所得が得られるような対策
- 2 農村資源維持活動に対する支援対策
- 3 医療や福祉の機関・サービスの確保対策
- 4 交通手段の確保対策
- 5 ITなど情報基盤の確保対策
- 6 若者等の人材の確保対策
- 7 優良事例の紹介などによる普及・啓発対策
- 8 特になし

問5 あなたは、自分の子どもに自家の農業（専業・兼業の形態を問いません）を継いでもらいたいと思いますか。

(該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。)

- 1 思う
- 2 思わない

問6 問5で「1 思う」と回答いただいた方にお尋ねします。

その理由についてご回答ください。

(以下の1～7の中から該当する選択肢の番号を全て選択して回答用紙に記入してください。)

- 1 十分な収入が得られるため
- 2 農業は工夫次第で休みが多く、労働時間も短くできるため
- 3 自家の農地を守っていく必要があるため
- 4 集落のリーダー、一員として仲間とともに、地域の農業・農地を守っていく必要があるため
- 5 他に仕事がないため
- 6 子どもが望んでいるため
- 7 その他

問7 問5で「2 思わない」と回答いただいた方にお尋ねします。

その理由についてご回答ください。

(以下の1～7の中から該当する選択肢の番号を全て選択して回答用紙に記入してください。)

- | |
|------------------------------|
| 1 農業では十分な収入が得られないため |
| 2 休みが少なく、労働時間も長いため |
| 3 自家の農地を守っていく必要は無いと思っているため |
| 4 集落内の他の農家、集落営農等に農業を任せればよいため |
| 5 他に仕事があるため |
| 6 子どもが望んでいないため |
| 7 その他 |

問8 あなたは、環境に配慮した農産物の生産を行うことの利点に関して、どのように考えていますか。

(以下の(1)～(6)にあげる項目ごとに、それぞれ該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。)

(1) 消費者の信頼感が高まる

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1 とても利点がある | 2 やや利点がある | 3 どちらとも言えない |
| 4 あまり利点がない | 5 まったく利点がない | |

(2) 販売価格が高くなる

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1 とても利点がある | 2 やや利点がある | 3 どちらとも言えない |
| 4 あまり利点がない | 5 まったく利点がない | |

(3) 販売量が増える

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1 とても利点がある | 2 やや利点がある | 3 どちらとも言えない |
| 4 あまり利点がない | 5 まったく利点がない | |

(4) 資材コストが減少する

- | | | | | | |
|---|----------|---|-----------|---|-----------|
| 1 | とても利点がある | 2 | やや利点がある | 3 | どちらとも言えない |
| 4 | あまり利点がない | 5 | まったく利点がない | | |

(5) 地域の環境をよくすることができる

- | | | | | | |
|---|----------|---|-----------|---|-----------|
| 1 | とても利点がある | 2 | やや利点がある | 3 | どちらとも言えない |
| 4 | あまり利点がない | 5 | まったく利点がない | | |

(6) 自身の健康につながる

- | | | | | | |
|---|----------|---|-----------|---|-----------|
| 1 | とても利点がある | 2 | やや利点がある | 3 | どちらとも言えない |
| 4 | あまり利点がない | 5 | まったく利点がない | | |

問9 あなたは、地域を活性化させるため、高齢者に行ってほしい活動は何だと考えていますか。

(該当する選択肢の番号を全て選択して回答用紙に記入してください。)

- | | |
|----|------------------------------|
| 1 | 地域問題についての調整役、とりまとめ役 |
| 2 | 伝統芸能や祭りなどの地域の文化・伝統の伝承 |
| 3 | 耕作放棄地を利用して景観作物を栽培するなどの環境美化活動 |
| 4 | 地場農産物を利用した農産加工、直売 |
| 5 | 市民農園などにおける農業技術の指導 |
| 6 | 子供に対する地域の伝統料理を使った食育指導 |
| 7 | 学校給食への地場農産物を使った食材の提供 |
| 8 | 地域内外の非農家住民や消費者とのイベントを通じた交流 |
| 9 | 一人暮らしの高齢者などへの地場農産物を使った配食活動 |
| 10 | その他 |

【利用上の注意】

1 調査の内容

本調査は、食の安全と消費者の信頼の確保及び、農業・農村の再生を図るための施策を検討するための基礎資料とするため、消費者及び農業者がどのような意識・意向を持っているかを調査したものである。

2 調査対象

農林水産情報交流モニターのうち、消費者モニター（1,500人）、農業者モニター（2,500名）を対象とした。

3 実施時期

平成21年12月4日（金）～18日（金）

4 調査方法

農林水産省大臣官房情報評価課からのオンライン調査及び、地方農政局、地方農政事務所及び内閣府沖縄総合事務局からの郵送調査により行った。

なお、オンライン調査とは、調査対象の情報交流モニター等が、本調査用ホームページに接続して、回答することにより行うものである。

5 調査票の回収率等

	対象者数（人）	回答者数（人）	回収率（%）
消費者モニター	1,500	1,305	87.0
農業者モニター	2,500	1,972	78.9

6 その他

- (1) 図中の各回答率は、各設問（各区分）の有効回答者数計を100.0とする割合である。
- (2) 表示単位未満を四捨五入したため、計と内訳の積み上げ値は必ずしも一致しない。
- (3) 図中に使用した記号「－」は、事実のないことを表す。

連絡先

農林水産省 大臣官房 情報評価課 業務第2班
電話（代表） 03(3502)8111 内線3256
（直通） 03(3502)8047

この資料は、農林水産省ホームページ【<http://www.maff.go.jp/>】の右側の「統計情報 ≫ 各種調査結果 ≫ 意識・意向調査」からご覧いただけます。